

JUA/EAU Academic Exchange Programme 参加報告

和田 耕一郎 (岡山大)

今回、JUA/EAU Academic Exchange Programmeにご選出頂き、北海道大学の松本隆児先生、TUA（台湾泌尿器科学会）からの3名の先生方（Dr. Hsieh, Dr. Fan, Dr. Chow）と2019年3月10日から19日まで、2施設の見学とEAU19の参加を含むスペインツアーに参加して参りました。

ヨーロッパは日本と同じか、日本より小さな国々が集まった共同体で、EUの枠組みと各国の枠組みの中で、先進的な取り組みや共同研究をしているため、私自身は非常に親近感を覚えていました。そのため、昨年本プログラムに応募しましたが、残念ながら落選してしまいました。今回、やはりヨーロッパの病院見学がしてみたいと再チャレンジして選出して頂くことができました。

3月10日の初日は観光の日でした。松本先生、台湾からの3名と私の5名で、ガイドさんと共に市内観光に出かけました。マドリッド市内は伝統ある建築物やコロンブスをはじめとした銅像なども多く、清潔でとてもいい街でした。Royal Palaceに行くと、多くの観光客がその壮大さと豪華さに感動していました。夕食は翌日から見学するLa Pas Hospitalのドクターたちが歓迎会を催して下さり、ステーキやリゾット、ワインなどをたくさん頂きました。Prof. L. Martínez Piñeroとも初めてお目にかかり、優しい歓迎の言葉をかけて下さりました。自分の拙い英語も丁寧に聞き取って下さることに安堵しました。

3月11日は朝からLa Pas Hospitalに向かいました。まず、その日の手術やBCG注入療法についてレクチャーを受け、そのまま手術を見学しました。頬粘膜を用いた尿道再建（Piñero教授）、HoLEP、副腎褐色細胞腫に対する腹腔鏡下摘除術、TULが行われていました。手術はすべて教授もしくはアテンドクラスの先生方が執刀されていました。夜はリアル・マドリッドの本拠地であるSantiago Bernabeu Stadiumの博物館を見学し、中のレストランでレジデントを含めたLa Pas Hospitalの先生方と大いに盛り上がりました。

3月12日もレクチャーと手術見学でした。LRPの際にICGで所属リンパ節を同定して郭清する手技について詳細な講義と手術が行われました。LRPはPiñero教授が担当し、その他にはPCNLやHoLEPが行われていました。PCNLの穿刺はX線透視のみを使用していて、マルチトラクトでも完璧な穿刺を行い、私には真似できないことがよく分かりました。研修終了後に空路でバルセロナに向かいました。ホテルに到着したのは夜遅くでしたが、「死ぬまでに一度は行ってみたい」と思っていたサグラダ・ファミリアがホテルの直ぐ側にあり、ライトアッ



写真1. Fundació Puigvert 病院の玄関にて。左から松本隆児先生、Chow 先生、Fan 先生、Palou 教授、Hsieh 先生、和田

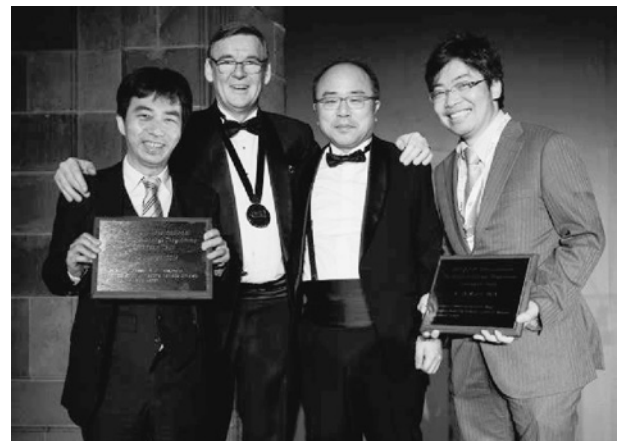


写真2. International and Friendship Dinnerにて。左から松本隆児先生、EAU chairman、藤澤 JUA 理事長、和田

プされた近景を見て感動し、フェイスブックにアップしました。数年後にはサグラダ・ファミリアが完成するそうなので、是非また行きたいと思います。

3月13日は徒歩でFundació Puigvert病院に向かいました。同院は世界遺産であるサン・パウ病院に併設されており、景観を損ねないように地下5階までを研究及び診療スペースとして利用されています。サン・パウ病院自体は現在、観光名所としてガイド付きのツアーが行われていました。教授のJ. Palou先生はとても気さくな先生で、いつも私達の様子を気にかけてくださっていました。

教授のスピーチと病院紹介のビデオを見たあと、手術室で手術見学をしました。Palou 教授は前立腺がんに対するダヴィンチ手術に関するレクチャーをされ、手術も執刀を担当しておられました。その他、献腎移植、Endourology、進行膀胱がんの開腹全摘術が行われていました。同院には年間60名の短期研修生（南米のスペイン語圏からが多い）が来ているため、手術見学は場所の取り合いとなってしまう、至近距離での手術見学はほとんどできませんでした。それでも、前立腺の凍結療法、膀胱がんのステージングと治療などの講義は有意義でした。夜は病院近くの伝統あるレストランでJ. Palou 教授とディナーを頂きました。

3月14日は講義の1日でした。UT-UC に対するRIRSやMMCの腎盂内還流、T1G3膀胱がんに対するマネジメント、膀胱全摘・尿路変向の合併症、転移性腎がんに対する薬物療法、前立腺がんに対するアクティヴ・サーベイランス、CRPC に対する薬物療法など、いずれもEAU直前にもかかわらず、熱のこもった講義をして下さり、質問にも丁寧に回答して頂きました。講義の後はサン・パウ病院のガイド付きツアーに参加しました。20世紀初頭に患者第一主義を掲げて建設されたサン・パウ病院は、広大な敷地に美しい建物が並び、地下道も整備された非常に大きな病院で、散歩をしたり外を眺めたりする患者さんが安らげるよう、様々な工夫がなされていてとても感動しました。

2つの病院見学では、確定した方針に則って治療方針を決定し、手術は上級医が行っている様子でした。皆、時間に正確で目上の人やお客を待たせないようにとの気遣いが頻繁に見受けられ、優しく笑顔で接する人が多いという印象を受けました。ちなみに、2病院ともシエスタの習慣はありませんでした（笑）。

3月15日からEAU19がスタートしました。岡山大学からはポスターが5題採択されており、定平卓也、光井洋介、丸山雄樹、松尾聡子が発表を行いました。発表以外はPlenary sessionやVideo session、企業のExhibition boothをみて回りました。メモしておいた印象に残った事柄としては、前立腺がんのアクティヴ・サーベイラン



写真3. 建設途中のサグラダ・ファミリアをバックに筆者のセルフイー

ス、T1G3膀胱がん（前向き臨床研究）、BPH に対するウォーターアブレーション、泌尿器科手術における周術期感染症予防などがありました。3月17日はInternational and Friendship Dinnerが開催され、Piñeiro 教授、Palou 教授、2年前に留学でお世話になったShahrokh F. Shariat 教授（ウィーン医科大）にもご挨拶ができました。日本からは藤澤正人教授（神戸大）と颯川 晋教授（慈恵大）が参加しておられ、ご挨拶や写真撮影をさせて頂きました。

EAU19は、人気都市で開催されることを差し引いても、日本人が例年より多く参加している印象を受けました。今後も研鑽をつみ、海外の動向にも注意を向けていきたいと思います。最後に、このような機会を与えて頂きましたJUA/EAUの関係者の方々、学会前で多忙にもかかわらず、歓迎して下さいましたPiñeiro 教授（マドリード）、Palou 教授および各施設のスタッフの方々に心から感謝致します。「ありがとうございました/Gracias！」